

## 入学希望者に向けた「オープンキャンパス」を開催

本学への入学希望者などを対象に、学部の説明や施設見学などを行うオープンキャンパスが、8月2日（月）から4日（水）にかけて実施された。

説明会は、薬学部・食品栄養科学部が2日、国際関係学部・経営情報学部が3日、看護学部が4日と、学部ごとに開催され、3日間で延べ2,416人が参加した。

参加者は、学部長や担当教員から、学部の特徴や授業内容、また入学者選抜に関する説明を受けた後、グループごとに分かれて、教員や在学生の案内で学内を見学して歩いた。



施設見学では、研究室や実験室、実習室を見学し、機器や研究内容の説明を受けたり、実習を体験したりした。



その他、模擬授業の実施や在学生との懇談会の開催、教員による相談窓口の開設など、学部ごとに趣向を凝らしたスケジュールが実施された。

また、学生部に相談コーナーが設けられ、入学者選抜や学生生活に関する案内が行われ、参加者は熱心にアドバイスを受けていた。



## 県民の日事業

明治9年8月21日に静岡県が誕生したことを記念し、平成8年度に制定された「県民の日」の諸行事が、8月21日(土)を中心に県内各地で開催された。本学では、大学構内見学会の「キャンパス・ツアー」と「環境科学研究所一般公開」が行われた。

## 県大の探検ツアーを開催！「キャンパス・ツアー」

8月20日(金)の「キャンパス・ツアー」は、県大のキャンパス内を見学していただき、その中の様々な体験を通して、県民の方々に県大を身近に感じてもらうことを目的に開催している。今年は県外からの参加者も多く、県内各地からの小・中・高校生を中心とした55名の参加があった。参加者は3グループに分かれて事務局職員の誘導により学内を見学した。看護学部の「地域看護実習室」「母性・小児看護実習室」「基礎・成人看護実習室」では教員より説明があり、食品栄養科学部の「食品衛生学研究室」では教員が研究内容を紹介した。さらにLL教室やコンピューター実習室では実際にパソコン等を使用するなど、参加者は県大の施設・設備・研究内容などに感心していた。参加者からは「ツアーに参加して入学したいという気持ちがますます高まってきました。頑張って勉強します。」「日常生活に関わる研究をされていて、大学の研究室を身近に感じることができた。」「楽しい時間を過ごし、学生の頃を懐かしく思い出しました。」などの声が聞かれた。



## 身近な環境問題を考えよう「環境科学研究所一般公開」

8月21日(土)に開催した「環境科学研究所一般公開」では、県民の方々に研究所の研究内容を理解していただくとともに環境問題を身近なものとして考えていただくよう、13の研究室の公開、研究内容の展示、デモンストレーション実験などを行いました。小学生からご高齢の方まで159名の参加があり、研究室の中に入って教員や大学院生の説明を聞き、日ごろ感じている疑問などを熱心に尋ねたり、自分の手で実験を行い、小さな喚声を幾度も上げる光景があちらこちらで見られました。

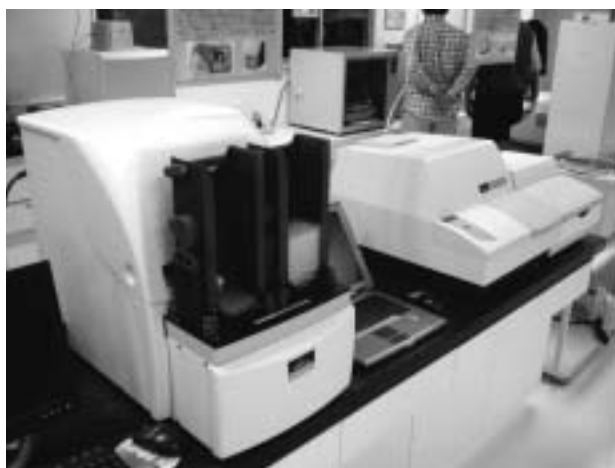


# 創薬探索センターの設置

創薬探索センター 教授 浅井 章良

創薬探索センターは、ファルマバレー構想の基本戦略のひとつ「先端的な研究開発と医療の質の向上」の中に掲げられている「創薬探索の推進」の中心を担う組織として、平成16年4月に県立大学薬学研究科付属施設として設置されました。そのミッションは、研究面においては、世界に通用する画期的新薬創出のためのシード化合物の探索、及び地域産業クラスターの創出、さらに教育面においては、企業等で即戦力となる優れた創薬研究者の育成であります。現在の構成は、県立大学大学院教員4名の一講座からなります。また県の試験研究機関の一つである環境衛生科学研究所創薬担当研究員2名がこれに参画しており、共同で化合物の収集（化合物バンクの構築）とスクリーニングシステム（基盤技術）の整備を進めています。これら基盤整備と平行して、収集化合物の分析・評価を、多種多様な角度から行い、医薬品候補化合物を絞り込んで行きます。一般的にひとつの新薬を開発するには、数百億円の研究開発費が必要と言われています。大手製薬企業と比較して小スケールの予算と人員で臨床候補化合物を創出していくためには、独自の創薬コンセプト、創薬基盤技術の確立が必要です。そのためには、1) マーケットではなく、アンメットニーズ創薬指向。2) ゲノム情報や計算化学を活用した効率的な探索基盤技術。が求められます。さらに、3) 薬学部各講座との連携。も重要な要素です。本学薬学部内は優れた研究の蓄積があり、そのシーズを薬に繋げて行くと同時に、「初期探索→構造最適化→動態、薬理解析→副作用予測」の創薬探索の流れの中で、上流から下流までそれぞれの局面において、特定の技術や研究成果を蓄積している各講座と連携していきたいと考えています。薬学部全体との継続的な協力体制を築いていくことにより、強力なベクトルを形成していくことが求められます。また、県立大学で見出された新薬候補を、

具体的な医薬品開発に繋げる目的で、4) 研究開発型ベンチャーを創出していくことも必要となってきます。そのために、現在ファルマバレー構想の一環として、インキュベーション機構設置の検討が進められています。健康福祉社会の実現に向けて、研究成果を社会に還元していくことは、薬学部の社会的使命のひとつです。輝かしい伝統を誇る静岡県立大学・薬学部がこれまで積み上げてきた財産と、新しい創薬の流れとを融合し、本学独自の研究、及び教育スタイルの創生を目指します。



# 第110回日本薬理学会関東部会および市民公開講座

(第110回日本薬理学会関東部会長) 薬学部・薬理学教室 中山 貢一

去る6月4日(土)に第110回日本薬理学会関東部会を本学にて開催いたしました。当日は日本晴れで、夏姿の富士山が大学キャンパスからも望まれ、約400名の方々にご参加いただきました。午前中に評議員会、午後にシンポジウムを2題、一般演題45題を3会場で行いました。シンポジウムは循環系の話題として「セリン/スレオニンキナーゼ阻害薬の基礎と臨床への展開」を取り上げ、下川宏明先生(九州大・院医・循環器内科)、瀬戸実・浅野敏雄先生(旭化成ファーマ・ライフサイエンス総合研)および西澤茂先生(浜松医科大・脳神経外科)にご講演いただきました。脳・冠血管攣縮や脳虚血後の神経細胞障害やカルシウム感受性の亢進などに関わるRhoキナーゼおよびプロテインキナーゼC(PKC)の役割とそれらの選択的抑制薬の治療への応用について熱心に討議されました。神経系のシンポジウムでは「学習およびシナプス可塑性におけるグルタミン酸受容体の役割」について三品昌美先生(東京大・院医・薬理)、真鍋俊也先生(東京大・医科学研・神経ネットワーク分野)、石川紘一先生(日本大・医・薬理)および松木則夫先生(東京大・院薬・薬品作用)にご講演いただきました。グルタミン酸受容体欠損マウスを用いた記憶学習システムの解析、行動実験からの学習、海馬とグルタミン酸の関連性、グルタミン酸受容体のチロシンリン酸化の役割、および海馬シナプス伝達の調節機構など、幅広く討議されました。翌6月5日(日)には日本薬理学会主催による市民公開講座『糖尿病が招く心臓・血管の病気—予防と治療薬の最新知識—』が、本学大講堂において行われました。当日は朝方、小雨が降りましたが、開場のころには空も晴れて、約300名の参加者がありました。前日のシンポジウムに呼応して、生活習慣と深く関係し、市民の関心も高い糖尿病と心臓・血管の病気をテーマとしました。

橋本敬太郎先生(山梨大・院医・薬理、日本薬理学会理事、前理事長)による市民の皆様へのご挨拶に続いて、4人の専門家にそれぞれの立場からお話いただきました。神原敬文先生(静岡県立総合病院長)には「糖尿病が招く動脈硬化と心臓病」について、その概略と、予防のために何をすべきか、何はすべきでな



いか、心臓病の診断法についてお話し頂きました。西澤茂先生(浜松医大脳神経外科助教授)は「糖尿病が招く神経・脳血管の病気」について、脳血管の動脈硬化と脳血管性痴呆などを分かりやすくお話しいただきました。最新の診断法や脳外科手術の実際を、動画も交えて提示していただきました。小野孝彦先生(静岡県立大・臨床薬理学教授)には「糖尿病腎症の診断と対策」についてお話しいただきました。末期腎不全に移行し、腎透析を新規導入する病因の第一位が糖尿病腎症であることと、治療の基本が血糖と血圧の管理、タンパクの過剰摂取を控えることや腎保護とレニン-アンジオテンシン系などについてお話しいただきました。土屋厚先生(呉服町土屋内科院長)には糖尿病学会専門医・指導医の立場で「現在使われている糖尿治療薬」についてお話しいただきました。現在、使われている糖尿病治療薬は、内服で使用する経口血糖治療薬と注射で使用するインスリンに大別されるが、いずれも、食事・運動などの自己管理を十分に行わないと効果が上がらないことを強調されました。質疑応答(Q & A)におきましては、参加者からの熱心な質問が相次ぎました。

本市民講座の目的のひとつは、市民への啓蒙のため、まず薬理学と言う語句やその分野に興味を持ってもらうことにあります。次世代の薬学・薬理学の担い手を一人でも多く育てるために、市民公開講座がその入り口としての役割を各地で果たせればと思います。



# 受賞

## 「The American Hall of Fame」 Award を受賞

(受賞者)

山口正義 (大学院生活健康科学研究科教授)

(経緯)

本賞は米国に本部がある国際的人名協会の一つである American Biographical Institute, Inc. (ABI) (Raleigh, USA)から授与 (2004年9月) されたものであります。当協会は、独自機関の調査及び審査に基づく権威ある人名録 (経歴、業績及び学術・社会活動などを掲載) を編纂しております。「The American Hall of Fame」 Awardは、この人名録登載者の中から当協会の審査委員会が選考し、文化、芸術及び科学などの分野において国際的に優れた業績をあげている人物に贈られる高貴な賞であります。今回の受賞は、生命科学分野において、山口教授のカルシウムをめぐる生体調節の仕組みとその病態の解明に関する30年余りにわたる多大な研究の業績 (ホルモンによる細胞内情報伝達系の制御蛋白質regucalcin並びにその遺伝子発現に係わる新規転写関連蛋白質RGPR- p 117の発見など) が評価されたものであります。なお、この受賞者にはABI本部のギャラリーに永久に顕彰 (殿堂入り) される栄誉が与えられております。



## 《 COE研究成果 》

### 第8回世界臨床薬理学会議

## 「Young Investigator Award」 Gold Prizeを受賞

(受賞者)

山田静雄 (薬学部教授)

(経緯)

去る8月1～6日にオーストラリアのブリスベンで開催された第8回世界臨床薬理学会議 (4年毎に開催) において、本学薬学部、浜松医科大学・臨床薬理学、国立健康・栄養研の共同研究: 「健常人における臨床薬 (トルブタミド、ミダゾラム) の薬物動態および薬効におよぼすイチョウ葉エキスの影響」 が国際薬理学連盟 IUPHAR: Young Investigator Awardの1st Place (Gold Prize) を受賞しました。約450の一般発表演題の中から、5演題 (スウェーデン2、オーストラリア1、ベルギー1、日本1) が候補として厳選され、4日にブリスベンコンベンションセンターで各30分の口述発表後5名の審査員で厳正な審査を経て、6日の閉会式で発表されました。共同研究発表者の内田信也博士 (浜松医大・臨床薬理学助手、平成10年本学・大学院薬学研究科博士課程修了) が受賞しました。欧米で汎用されている代表的メディカルハーブと臨床薬の相互作用を薬物動態と薬効の両側面からヒトで同時評価し、臨床的にインパクトの高い成果を得たことが受賞理由です。今後の更なる発展が期待されます。

[発表演題]

Effects of *Ginkgo Biloba Extract* on pharmacokinetics and pharmacodynamics of tolbutamide and midazolam

Shinya Uchida<sup>1</sup>, Hiroshi Yamada<sup>1</sup>, Xiao Dong Li<sup>1</sup>, Syuji Maruyama<sup>2</sup>, Yuki Ohmori<sup>2</sup>, Tomomi Oki<sup>2</sup>, Hiroshi Watanabe<sup>1</sup>, Keizo Umegaki<sup>3</sup>, Kyoichi Ohashi<sup>1</sup>, Shizuo Yamada<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan

<sup>2</sup> School of Pharmaceutical Sciences & COE Program in the 21st Century, University of Shizuoka, Shizuoka, Japan

<sup>3</sup> National Institute of Health and Nutrition, Tokyo, Japan



## 第13回日本がん転移学会総会優秀発表賞を受賞 ～薬学研究科大学院生2名が同時受賞～

(受賞者)

清水広介 (大学院薬学研究科博士課程2年)

布施千秋 (大学院薬学研究科修士課程2年)

(経緯)

去る6月10日～11日に東京で開催された第13回日本がん転移学会総会において清水広介君と布施千秋さん(いずれも医薬生命化学教室、奥直人教授)の2名が優秀発表賞を受賞した。清水君は「老化に伴うがん転移能の変化」という発表で、内容は老化促進マウスを用いて、がん転移能が亢進すること、およびこれが老化による免疫系の低下が一因となっていることを明らかにしたものである。また布施さんは「細胞接着分子JAMの機能解析：JAMとがん転移との関連について」という発表で、最近見つかった細胞接着因子JAMについて、そのある分子種ががん転移に関係することを分子生物学的手法で明らかにしたものである。何れも高い評価を受けての受賞となった。大学院生での受賞もさることながら、一研究機関から2名の同時受賞は快挙である。



## 科学研究費補助金の追加採択

### 若手研究(B)

国際関係学研究科 助手 佐藤真千子

研究課題名 「アメリカ外交における非政府組織の関与に関する研究」

## 研究助成採択

### 平成16年度 財団法人漢方医薬研究振興財団 研究助成金

研究題目：烏龍茶より単離された新規フラボン誘導体をリードとするアトピー性皮膚炎薬の開発  
薬学部薬品製造化学教室 助手 古田巧、薬品資源学教室 助手 脇本敏幸

### 平成16年度 ネスレ科学振興会研究助成

研究課題：「固体NMRによる植物ポリフェノールと脂質二重層との相互作用の解析」  
食品栄養科学部 食品加工貯蔵学研究室 助教授 熊澤茂則

## フィリピン大学短期交換留学生来学

県立大学と学術交流協定を結んでいるフィリピン大学から、短期交換留学事業による派遣学生が10月初旬来日した。

フィリピン大学文学部哲学専攻4年生のサボナイ・リッキーさん(Sabornay・Ricky)は、国際関係学部で日本語や日本文化その他について授業を聴講する。

平成17年3月末までの6ヶ月間、清水市内のホストファミリー宅に、ホームステイする。日本の家庭で生活しながら本学で勉強する。リッキーさんは母国語のタガログ語と英語が話せます。日本語は勉強中であり、片言で話せます。

もし、顔を見かけたら、気軽に声をかけて見て下さい。彼は社交性豊かなので、すぐ友達になれますよ。



# 奨学金をありがとうございます

## 「日本平留学生基金」入学祝金贈呈式

日本平留学生基金（代表イトウ秀雄氏）贈呈式が5月26日に本学にて行われ、今年入学した学部留学生10名全員（国際関係学部8名、経営情報学部2名）に1人ずつ入学祝金1万円が贈呈された。

日本平留学生基金は、県立大学に在学している、主として東南アジアからの留学生に金銭的援助を行うことを目的として、平成8年にイトウ秀雄氏の還暦記念に設立された基金であり、今年で9年目を迎える。イトウ氏の基金募集の趣旨に賛同した協力者は500を超える個人・団体にのぼる。

## 「富士川町静岡県立大学留学生就学奨励金」交付式

富士川町文化事業振興会が支給する就学奨励金の交付式が6月26日、富士川町中央公民館で行われ、学部1年の留学生10名全員に1人あたり10万円が支給された。

この就学奨励金は、本学に在学する優秀な留学生に総額100万円を交付し、留学生の教育・研究活動を支援するとともに、富士川町が主催する事業を通じて、留学生と富士川町民との相互の心の触れ合いを深め国際交流を図ることを目的としている。

交付式では坪内伸浩富士川町長が挨拶し、留学

## 「静岡新聞社・静岡放送奨学金」授与式

（株）静岡新聞社・静岡放送（株）奨学金授与式が5月7日に本学で行われた。

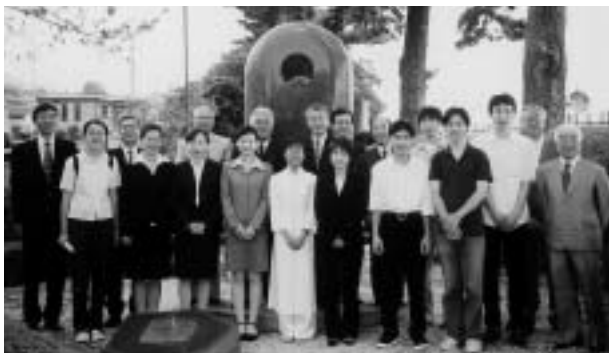
本奨学金は、（株）静岡新聞社・静岡放送（株）が、視覚障害を有する国際関係学研究科修士課程1年大胡田裕さんの就学支援を目的として、本年度から設立された。同社には国際関係学部生時代も大胡田さんに奨学金を提供していただいている。

授与式では認定証が贈られ、大胡田さんが「大きな問題であった教材準備費用に関する心配が消

贈呈式でイトウ代表は「自分の良さを磨き、母国を想い、母国を憂え、母国を愛する若者になって欲しい。」と挨拶し、留学生を代表して国際関係学部1年張剣涛さんが「温かい御厚誼を感じます。この祝金を有効に利用し、充実した学習生活を送りたいと思います。」と感謝の言葉を述べた。



生を代表して国際関係学部1年陳国蘭さんが「皆様の御厚意を無駄にすることのないよう今後とも勉学に励んでいこうと意を新たにしております。また、皆様との交流にも積極的に参加させていただきたいと思います。」とお礼の言葉を述べた。



えてほっとしたのと同時に、奨学生としての誇りと責任感を胸にこれからの勉学に励んでいこうと身が引き締まる思いです。」とお礼の言葉を述べた。



### 「万城食品奨学金」授与式

(株)万城食品奨学金授与式が6月15日に三島市の(株)万城食品本社にて行われた。

本奨学金は、(株)万城食品により中国出身の留学生への奨学金支給を目的として設立され、今年度で8回目を迎えた。「奨学金を利用して在学期間中何について勉強したいか」を論文テーマに募集し、(株)万城食品による選考の結果、国際関係学部1年趙亭さんが採用された。

授与式では、(株)万城食品の米山寛代表取締役

から目録を贈られ、趙さんが「貴社の御厚意に深く感謝します。これからの4年間一生懸命勉学に励んでいきます。」とお礼の言葉を述べた。



### 「TOKAI奨学金」目録授与式

(株)TOKAI奨学金目録授与式が6月24日に本学で行われた。

本奨学金は、(株)TOKAIにより地域に密着した企業の事業の一環として設立され、今年度で13回目を迎えた。

「年金制度改革について」を論文テーマに募集し、国際関係学部4年田中正史さん、薬学研究科博士前期課程2年行天由香里さん、国際関係学研究科修士課程1年鄭泰元さんが採用された。

授与式では、(株)TOKAIの真室孝教人事部

担当理事から目録を贈られ、奨学生が「海外の大学院の進学費用に充て、今回いただいた以上のものを社会に還元できるよう努力します。」(田中さん)など、それぞれお礼の言葉を述べた。



### 「静岡ガス奨学生」認定証授与式

静岡ガス(株)奨学生認定証授与式が6月28日に静岡市の静岡ガス(株)本社で行われた。

本奨学金は、静岡ガス(株)により、社会有用の人材育成に寄与することにより地域社会への貢献を図ることを目的に設立され、今年度で5回目を迎えた。

「自分自身の将来像について」または「環境問題について」を論文テーマに募集し、国際関係学部2年夏妍さん、同研究科修士課程1年西村千保さんが採用された。

授与式では、静岡ガス(株)大石司朗取締役社長から認定証を贈られ、「論文から、社会や自分の将来について真剣に考えている様子がうかがえ、大変頼もしい。」と激励を受けた。





### 「静岡信用金庫奨学生」認定書授与式

静岡信用金庫奨学生認定書授与式が7月8日に静岡市の静岡信用金庫本部で行われた。

本奨学金は、地域に生きる静岡信用金庫の基本方針に従い、次代を担う人材育成に寄与することを目的に設立され、今年度で8回目を迎えた。

「あなたの未来について」を論文テーマに募集し、経営情報学部3年伏見和真さんが採用された。

授与式では、静岡信用金庫の板倉征夫理事長から認定書を贈られ、伏見さんが「奨学金を有効に

使い、静岡の活性化に役立つ人材になるようがんばります。」とお礼の言葉を述べた。



### 「南富士産業奨学金」授与式

南富士産業（株）奨学金授与式が7月26日に本学で行われた。

本奨学金は、南富士産業（株）により、向学心に燃える優秀な学生を援助し、国際社会、文化に貢献する人材育成の一助とすることを目的に設立され、今年度で8回目を迎えた。

「日本の茶の輸出入の現状と将来の考察」等を論文テーマに募集し、薬学部4年福留大輔さんが採用された。

授与式では、南富士産業（株）杉山定久代表取

締役社長から奨学金が贈られ、福留さんが「研究者を目指しており、大学院に進む費用にします。」とお礼の言葉を述べた。



### 「東海澱粉国際交流奨学基金」目録授与式

公益信託東海澱粉国際交流奨学基金目録授与式が7月28日に東海澱粉（株）本社で行われた。

本基金は東海澱粉（株）により静岡県内の大学院に在学しているアジア諸国からの留学生への奨学金支給を目的として平成10年4月に設立された。

同基金の運営委員会の審議を経て、本学からは経営情報学研究科修士課程1年尹光星さんが採用された。

授与式では目録が贈られ、奨学生がお礼の言葉を述べた。

### 「天野回漕店奨学生」認定書授与式

(株)天野回漕店奨学生認定書授与式が7月29日に本学で行われた。

本奨学金は、(株)天野回漕店により「共存共栄」の経営理念に沿って地域社会の発展に努め、地元静岡県 of 学生の奨学奨励に寄与することを目的に設立され、今年度で10回目を迎えた。

「自国の経済成長と日本との関わり合い及び今後の展開」等を論文テーマに募集し、国際関係学部2年高鵬さん、同3年李迪さん、経営情報学部

3年張正義さんが採用された。

授与式では、(株)天野回漕店の小松信介取締役社長から認定書を贈られ、奨学生が「日中友好の架け橋となって恩返しができるよう励みたい。」(張さん)など、それぞれお礼の言葉を述べた。



### 「駿河精機奨学金」授与式

駿河精機(株)奨学金授与式が8月6日に本学で行われた。

本奨学金は、駿河精機(株)により、経営理念の《天意創造》のもとに地域に密着した企業を目指し人材開発の一環として設立され、今年度で9回目を迎えた。

「人生で感動したこと」を論文テーマに募集し、国際関係学部2年奚雅璇さん、生活健康科学研究科博士後期課程2年栗原龍さんが採用された。

授与式では、駿河精機(株)の望月信行取締役

管理部長から奨学金を贈られ、奨学生が「奨学金のメリットを最大限に生かし、勉強と国際交流活動に力を注いでいきます。」(奚さん)など、それぞれお礼の言葉を述べた。



### 「清和海運奨学金」授与式

清和海運(株)奨学金授与式が8月6日に本学で行われた。

本奨学金は、清和海運(株)により、地域に密着した企業として経済的に就学困難な学生の援助をすることを目的に設立され、今年度で2回目を迎えた。

「物流業の将来と課題」を論文テーマに募集し、国際関係学部2年佐藤健太さん、経営情報学部3年濱田卓生さん、国際関係学研究科修士課程2年竹本彩香さんが採用された。

授与式では、清和海運(株)の宮崎總一郎代表取締役社長から認定書を贈られ、奨学生が「感謝の気持ちを忘れず、将来に向けて充実した大学生活を送ります。」(佐藤さん)など、それぞれお礼の言葉を述べた。



## インターンシップ活動報告(食品栄養科学部・生活健康科学研究科)

食品栄養科学部・生活健康科学研究科就職委員 中山 勉

平成13年度より実施している食品栄養科学部・生活健康科学研究科インターンシップ制度が4年目を迎えた。今年度からは、参加した学生に単位(1単位)を認定することになった。

本年度の受け入れ先(研修先)の数は民間企業・15社、静岡県の試験研究機関・5機関、秋田県の試験研究機関・1機関であった。参加した学生数は食品栄養科学部の3年生が12名、生活健康科学研究科修士課程の1年生が21名であった。予め教員による企業訪問や、学務スタッフによる県試験研究機関との調整の後、各学生は7月～8月の夏休み中に5日から二週間程度の研修を受けた。内容は研修先によって大きく異なるものの、食品開発、糖・ポリフェノール・微量成分・環境ホルモンなどの分離・精製とHPLCやGCによる分析、品質管理、細菌検査、安全性試験、工場見学などであった。9月21日には、関係者(受入れ先担当者、学生、教職員)が一同に集まり、反省会(意見交換会)を行った。その後、受入れ機関の担当者と参加学生の全員から提出された報告書の内容に基づき教員が成績判定を行った。報告書の中で企業が求める知識や技術が理解でき有意義であったという感想を述べた学生が多かった。受け入れ先からも、有意義な制度であり学生は礼儀正しいとの意見が多かった。

インターンシップの参加希望者の数は実際に参加した学生数の3倍程度あり、次年度以降は、インターンシップに賛同していただける民間企業の数を増やしたいと考えている。そのためのパンフレットも準備中であり、企業の紹介など皆様の協力をお願いしたい。

## 本学教員の著書紹介

国際関係学部 助手 平山 洋

日本の文明開化を先導した偉大な思想家福沢諭吉は、アジアを蔑視し中国大陸への侵略を肯定する文章をたくさん残しています。それを理由に福沢を全否定しようとする動きも絶えません。確かに現在も刊行されている福沢の全集にはその種の文章が多数収録されています。

しかし、それを書いたのは本当に福沢本人なのでしょうか。もし、誰かが福沢の作品ではないものを福沢の真筆と偽って全集にもぐりこませていたとしたら、どうなるのでしょうか。その謎を解き明かしたのが本書です。

8月20日 文春新書『福沢諭吉の真実』(756円)刊行



## 星杯争奪テニス大会開かれる！

食品栄養科学部・食品衛生学研究室 助手 増田 修一

7月17日（土）に食品栄養科学部の恒例行事である星杯争奪第15回テニス大会が行われました。暑い夏の日の中、初代学部長であり、本大会の発起人である星猛先生をはじめ、約40名の教員・大学院生・学部生が参加しました。星先生は相変わらずお元気で、学生に負けまいと右に左にテニスボールを追いつつ、楽しんでおられました。今大会では、現学部長の木苗直秀先生が優勝され、優勝トロフィー、記念の楯、記念品を受け取りました。2位には竹石圭一先生と熊澤茂則先生がなり、それぞれ記念品を受け取られました。

夕方には、管理棟地下1階の食堂で懇親会が開かれ、本大会を振り返りながら、学部内の教員・学生間の友好の輪を広げることができました。

実験で忙しい毎日を過ごしている中で、大会の世話役となられた修士の学生の皆様に深く感謝しております。来年度もこのテニス大会に1人でも多くの方々が参加されることを希望しています。



## 全勝優勝！準硬式野球秋季リーグ！

準硬式野球部マネージャー

食品栄養科学部4年 義村 七々絵

9月下旬から10月下旬にかけて平成16年度静岡県大学準硬式野球秋季リーグが行われ、平成3年以来、13年ぶりとなる優勝を収めました。今大会は、試合途中からの雨による5回ノーゲームという歯切れの悪いスタートでしたが、5月末の東海選手権大会での好成績を上回る好調ぶり、連勝に連勝を重ねていきました。そして、10月24日（日）の最終戦では宿敵である静岡

大学静岡校を相手に、勝てば優勝というプレッシャーによる緊張から少し固くなってしまい、静岡大学に先制されましたが、4番澤村の3ラン本塁打によって一気に試合の流れをつかみ、16-5の5回コールドという大勝で、念願だった優勝を勝ち取ることが出来ました。また、首位打者賞：正田直巳（薬2年）、最優秀投手賞：宮



澤勇輝（言文1年）、そして最優秀選手賞：澤村浩佑（経情4年）と、個人タイトルも県立大学で総ナメという、今までにない素晴らしい結果となりました。

昨年までは個人プレーに頼った、少しガラガラとしたチームでしたが、福井六三四主将を中心に、真面目なときは真面目にという、けじめのあるチームへと生まれ変わり、全員で盛り上げて全員で守って点を取るという、非常にまとまったチームとなれた事が優勝へとつながったのだと思います。今大会で引退となった4年生にとってこの優勝は最高の思い出であり、3年生以下はこの優勝で満足せず、選手・マネージャーが一丸となって連覇を目指して頑張りたいと思います。

## 研究室・ゼミ紹介

### 見矢野ゼミ紹介 - 『国際法から世界を見る』 -

国際関係学部 4年 山口佳恵、高ヒンホウ、山田りか

私たちのゼミでは、現在3年生4人（もう1人は海外留学中）と4年生3人で、見矢野マリ先生の指導の下で国際法を学んでいます。前期は、今まさに国際社会で大きな争点になっている問題を題材にディベートを行います。後期は、各ゼミ生の自由研究の発表と討論を中心に進めます。

前期のディベートでは、今年度と昨年度はイラク問題を取り上げました。1990年代の湾岸戦争に続く最近のイラク戦争は国際法上合法か違法か、また、現在進行中のイラク問題について国連は何ができるか、どう対応すべきかについて、ゼミ生全員が2つのグループに分かれ、激しい議論を行いました。まず事実を確認するために、各グループで大量の文献や資料を集めて、戦争に至るまで、また戦争終結から現在に至るまでの詳細な年表づくりや要点整理をします。関連する国連安全保障理事会の決議などを原文で読み、また各国の主張や動向なども分析して、ゼミに備えて週3回程度各グループで集まって話し合いながら準備していきます。そして、国内外の関連図書や論文などを参考に、論点を抽出して理論武装を進めます。4年生は文献の探し方、論点の探し方、レジュメのまとめ方、発表や討論の方法などを3年生に指導しますが、このときに逆に新しい視点を3年生から教わることもしばしばあります。そこには「教えることで教わる」、「教えてもらって教える」という良い循環があります。先生からは随時



アドバイスを頂き、隔週で行われる2コマ連続のゼミでは、グループ相互の発表と活発な議論に集中します。これらの機会を通して着々と準備を重ね、学期最終週の本番ディベートでは、それまでの努力を結集して総力戦で臨みます。論点をはずさないように議論するのはとても大変ですが、大量の文献に埋もれそうになりながらも皆で試行錯誤したことは、大きな自信の醸成と問題意識の発展につながりました。そして、これからの国際社会で私たちは物事をどのように捉え、判断し、行動していけば良いのか、日本は何をすべきかということ、深く考えるようになりました。こうしたディベート学習の今後の課題は、学科内の政治系のゼミとの合同ゼミで、調べた成果に基づきイラク問題について学際的に議論し、多角的な観点から問題を理解することでしょう。これは国際社会での法規範の機能の再認識につながります。

そして後期には、各ゼミ生が興味を持ったテーマについて、先生との一対一の面談を経て課題を掘り下げ、ゼミでの発表を続けながら個人研究を

進めていきます。4年生は前期にも昨年度後期からの研究を各自継続しているのですが、後期はゼミでの発表を通して卒業研究を仕上げていきます。

3年生は来年度の卒業研究の足がかりをつかみます。テーマは国際法に関するものなら何でも良いのですが、例えば、今年のゼミ生は国際刑事裁判所、環境の国際的保護、国際テロリズムの規制、国連安保理の権限と機能などを選んでいきます。目下の課題は、各自異なるテーマの発表と討論の際のディスカッションを活発にするためには、どう工夫すればよいのかということです。今年度は、コメンテーター制を取り入れることにしました。

私たち学生は、このゼミで学問や知識だけにとどまらず様々なことを学んでいると実感しています。それは、ひとえに先生とゼミ生、ゼミ生間、そしてゼミ生とOB間のコミュニケーションが活発だからでしょう。といっても頻繁にコンパなどを行うわけではありません。コンパはOB会も含めて、4月の新歓コンパ、前期末のディベート打ち上げコンパ、1月末の4年生の追い出しコンパと年4回ほどあります。けれども、それよりも先生との面談、ゼミでの勉強、先生の研究の手伝いなどを通して、時には叱咤されながら、人間としての社会生活のルールを学び、学問の学び方を身につけ、人生について考えます。ゼミの仲間からはいろいろな機会に異なる考え方や生き方を教わり、今まで知らなかった自分に気づかされます。毎年留学生もいるので話に厚みが増します。また、議論好きで話し好きの先生に多くの面で刺激されます。ゼミには個性的な学生が集まっており、先輩方の

進路もいろいろです。大きく一般企業（貿易業、通信業、金融業、製造業など）、公務員（国家公務員、地方公務員）、大学院進学、そして我が道を行くタイプ（NGO活動で海外へ、職人修行に励む、他大学に編入学など）に分かれます。そんな先輩方と交流できる毎年のOB会では、ざっくばらんに楽しく、近況から社会問題や就職などにいたるまで語ることができます。OB会をはじめコンパはオープンで、ネイティブ・スピーカーの先生や他ゼミの学生や卒業生など、会費さえ払ってくれば誰でも歓迎されています。

国際法は、主権国家平等の原則に基づく多元的な国際社会における法規範として、さまざまな国際紛争を回避し平和的に解決するために不可欠なものです。私たちは時事問題や個別分野の研究を通して、国際社会における国際法の役割を学んでいます。でも、先に述べたようにこのゼミで得られることはそれだけではありません。ゼミで培った知識と物の見方、人間性を大切にしながら、卒業後も各ゼミ生が自らの生き方を貫きながら、国際社会で精一杯活躍できることを願っています。



# 薬学部・薬学研究科の動き

薬学部長 辻 邦郎  
薬学研究科長 三輪 匡男

平成16年5月に学校教育法の一部改正案が、また6月には薬剤師法改正案が衆参両院で可決され、平成18年度から薬剤師養成教育期間が基本的に6年制に移行することが決定されたことを踏まえ、薬学部ではこの準備作業を急ピッチで進めております。

## 1. 新薬学部教育体制(6年制)設置準備と大学院教育・研究体制の構築(平成17年度文部科学省提出)

## 2. 長期実務実習施設の確保(県立総合病院の院長はじめ関係者のご理解を得て、総合病院内に高度な実務実習施設として薬学教育・研究センターの設置)

法改正後の大学設置基準(文科省令)によると「臨床に係わる実践的な能力を培うことを主たる目的とする学部・学科」の卒業要件として6年以上在学し、186単位以上(現行124単位以上)、また実務実習を20単位以上修得することと規定されています。また設置基準には、薬学実務実習に必要な施設を確保するものとの規定も盛り込まれています。これまで国公立大学は私立大学と比べ、様々な点で恵まれた教育環境にあり、逆に大学側には応分の教育レベルを維持し、指導的役割を持つ次世代の若者を育てることが期待されてきました。大学付属病院を持たない本学薬学部にとっては、この実務実習施設を確保することが必要かつ緊急な問題であり、設置者の理解を得るよう努力しております。また一方、我が国では薬学部では薬剤師養成に加えて、製薬企業、公的試験研究機関、大学などの教育研究者の養成も担ってきました背景もあって、4年制学科も学部併置することが認められ、本学でも6年、4年制の2学科からなる薬学部を目指しております。こちらの学科は、大学院博士前期課程を視野に薬学の基礎から創薬など応用面の研究を重視した教育体制を目指しており、本学では博士前期課程を修め、さらに実務実習など医療薬学カリキュラムに必要な単位を修得できる教育環境を整備する計画で作業を進めております。

## 3. 薬学教育内容、教育方法の改善を目指した教員研修(薬学教育者ワークショップ東海)の開催(8月21、22日)

平成15年度に続き東海地区薬系の4大学の教員(各大学11名)とタスクフォースとして既経験教員12名が参加し、薬学教育内容、教育方法の改善を目指した教員研修会を実施した。今年度までにこの教員研修を受けた本学薬学部教員は22名となり、今後の薬学教育の改善に寄与して戴けることが期待される。

## 4. 静薬創立88年記念式典、記念講演会、記念祝賀会の開催

平成16年5月8日(土)に県立大学大講堂において、石川嘉延静岡県知事を来賓にお招きし、廣部雅昭学長、辻邦郎学部長の挨拶のもとに静岡薬科大学、静岡県立大学薬学部の活動を支援くださった7名の方々に感謝状を贈呈した。式典終了後、元静岡薬科大学教員で、現大阪薬科大学学長である矢内原千鶴子先生、同窓生の現社会福祉法人聖隷福祉事業団理事長である山本敏博先生をお招きして記念講演会を開催し、同窓生、元教員多数の参加を得て、記念祝賀会を開催した。また薬学部棟エントランス壁面に、薬学校の発足から薬学部発展の沿革史を銅製銘板として掲示した。

## 5. 高校生を対象とした「ファーマカレッジ2004—薬学への招待」開催

平成16年7月29日、30日の両日、県内高校生を中心に30名の高校生が参加し、6課題に挑戦した。今年度は県下23高等学校から75名に及ぶ申込者から選抜し、過去5年間継続している薬学部の体験入学事業がほぼ定着し、高校生からも歓迎される事業となった。

## 6. 第6回日中健康科学シンポジュームの開催および協定書の見直し

廣部学長、辻学部長、野口前研究科長、米津事

務局長、薬学部教授、食品栄養科学部教授が参加して、5月29日から6月3日の間、中国浙江省に出向き、シンポジウムを開催し、最新の県立大学で成果をあげた研究内容を発表し、研究交流を深めた。また同省医学科学院との間で締結された大学間協定および浙江大学薬学院との間で締結された学部間協定について、最近の状況に照らした協定書の見直しを行った。

### 7.21世紀COEプログラムの推進

平成14年度に立ち上がった21世紀COEプログラムに対する補助金で、薬学研究にも必須な設備となっているレーザー共焦点顕微鏡を導入し、生体イメージング面の研究体制を整えることができた。また、このプログラム補助金により大学院博士後期課程の院生をティーチングアシスタントに採用するなど、大学院生の研究生活を援助する体制もとっている。

### 8. 大学院薬学研究科に創薬探索センターの創設と学部支援体制の構築

平成16年度4月より大学院附置センターとして創薬探索センターが設置され、協和発酵工業(株)医薬総合研究所より浅井章良教授が着任し、米国Dana-Farberがん研究所研究員である澤田潤一助教授、日本学術振興会海外特別研究員(米国国立がん研究所研究員)である大石真也講師、清水基弘助手が採用され、創薬探索センターの研究がスタートすることとなった。平成17年度からは大学院薬学研究科大学院博士前期課程の院生が配属され、人的な面で体制が整いつつある。また薬学部・薬学研究科所属の全教員と創薬探索センター教員並びに井上ファルマバレーセンター所長が面談し、これまで薬学部・薬学研究科で進めてきた研究成果などの情報交換を進め、創薬探索センターの研究業務を遂行する上で、相互に理解を深めるための基本となる研究面の情報交換の体制が構築した。

### 9. 医療薬学・薬剤師関連の教育・研究の充実

病態薬学講座の後任教授として、京都大学医学部付属病院に勤務していた小野孝彦博士を招聘した。臨床医である小野教授は京都大学大学院薬学

研究科修士課程を修めており、本学薬学部・薬学研究科において最適な人材であり、医療薬学教育面を担当する教員を充実することが出来た。

### 10. 大学院活性化事業

客員教授として、静岡県立総合病院糖尿病内分泌代謝センター長の井上達秀博士、中国浙江省医学科学院薬物研究所教授の陳国神博士、旭化成ファーマ(株)ライフサイエンス総合研究所長の浅野敏雄博士を任命し、薬学研究科薬学専攻および医療薬学専攻の教員との共同研究が開始された。

臨床教授として、静岡県立総合病院の見崎芳枝薬剤部長、焼津市立総合病院の斎藤文昭診療技術部長、総合病院静岡厚生病院の松山耐至薬局長を任命し、医療薬学専攻大学院生の臨床研修の指導を仰ぐことが出来た。

治験・臨床開発基礎特論、同応用特論を開講する為の講師選定を進め、平成16年度医療薬学専攻特論として、社会人の聴講機会も考え、夜間に開講することとした。

### 11. 科学系図書の充実

本学図書館が購読している自然科学系欧文学術雑誌の予算不足を、薬学部・部局予算の中から負担した。また、学生用薬学教育図書として後援会の援助を得て160冊に上る図書を寄贈し、学生の勉学環境の整備を図った。

### 12. 薬学基礎実習、専門実習の機器整備および大型機器の整備

文部科学省助成金を受け、平成16年度に医療薬学系の研究に必要としていた機器の整備を目的に申請していたが、文科省の公立大学機器施設整備事業が廃止されたことにより、従来の予算枠の獲得が困難となった。設置者の格段の配慮から県単独事業として予算が認められ、薬学部・薬学研究科の研究機器整備計画を遂行することが出来た。しかしながら、平成元年に谷田キャンパスに移転した際に整備した研究機器は既に耐用年数を過ぎており、先端的研究を本学で進める上で、この研究機器整備事業は大幅に促進する必要がある。設置者にさらなる理解を得る必要がある。



# 食品栄養科学部の動き

食品栄養科学部長 木苗 直秀

本学の開学と同時に開設された食品栄養科学部は18年目を迎え、「食と健康を科学する」を合い言葉に教育面、研究面で益々充実度を増している。

既に1000余名の学部卒業生・大学院（食品栄養科学専攻）修了生を世の中に送り出している。食品学科卒業生は主に食品産業界で企画、開発、製造、品質管理部門で、また、栄養学科卒業生は主に学校・病院等で管理栄養士として活躍している。特に本学部大学院出身者のうち10数名が大学教員として教育、研究に携わっていることは特筆されよう。

## 1. 教育面について

[食品学科]

平成14年度より、3年次への編入学生の募集を行っている。本年度は19名の志願者があり、高専等から2名が合格した。カリキュラムの見直しにも着手しており、講義や実習、卒業研究をより充実させたいと願っている。またJABEE（日本技術者教育認定基準）や理科教員免許コースの開設等について検討を始めており、学生の要望にも卒直に耳を傾けていきたいと考えている。

[栄養学科]

管理栄養士養成施設となって既に4年目を迎えている。国家試験が従来の5月から本年度より3月に変更されたので、卒業論文の発表・提出日の若干の繰り上げとともに、試験対策を効率的に進めるように力を注ぐことにしている。

[共通]

両学科に共通することとして、チューター制度の充実が挙げられる。学生に対しては、勉学のみならず、各種悩み事を含めた個人相談に対応できるように1学年50余名の学生に対して6～7名の教員が配置されている。近年、図書館における学部生・大学院生向け専門書の不足が目立ってきたので、各教員より指定参考書を提出して頂き、本年5月まで137冊を配架することが出来た。また、講義・実習実験の充実をはかるため、全学教務委員会で作成したフォーマットを用いた学生による授業評価が教員有志の協力により前期試験よりスタートした。学生、教員にとって、より満足度の高い講義になることを期待している。

## 2. 研究面について

研究面では学長特別研究費や学部長特別研究費等による学部内共同研究が盛んに行われている。さらに、文部科学省の科学研究費や、いずれも3年前に採択された21世紀COEプログラム、都市エリア事業等により、他学部や他大学との共同研究が一層加速している。本年度より、本学大学院生活健康科学研究科入学試験に自己推薦制度が導入されたことにより、当学部からの進学者数が増加したことは、6年一貫教育を視野に入れて若手研究者の育成に力を注いでいることを考えると、誠に喜ばしいことである。

### 3. その他

#### 〔インターンシップの単位化〕

学部では平成14年度より10～20名の3年生が県内企業や県試験研究機関でインターンシップを行っており、学生が実社会を体験し、自身の将来の進路決定にも有効に役立っているものと思う。インターンシップは本年度から単位化（1単位）され、また、終了後に各企業や県試験研究機関の担当者を大学に招き、報告会の席上で学生、教員との意見交換を実施し、次年度に向けた準備を進めている。

#### 〔高校への出前講義〕

県内高校への出前講義も本年度は12校を数えており、高大連携を推進しているためか、オープンキャンパスには今までで最も多い450名の高校生が訪れた。このことは当学部がめざす「21世紀における食と健康の科学」への関心が極めて高いことを裏付けているものであろう。

#### 〔卒業生からの贈物〕

平成15年度学部卒業生・大学院修了生が電気ポットや電子レンジ、トースターを卒業記念に寄贈してくださったので、毎日昼食時にカレッジホールで利用されている。私達教員も、これからは弁当を持参して学生とのコミュニケーションをさらにはかりたいと思う。

#### 〔コミュニケーションを大切に〕

1学年50余名の小さな学部であるので、大学院生を含めた学生数は320名である。しかし、教員45名は、医学部、薬学部、農学部、理学部、家

政学部出身とバラエティーに富んでいる。それ故、学生と教員とのコミュニケーションを常に大切にしつつ、教育・研究をより一層発展充実させたいと願っている。



1年生学外研修（浜名湖花博）



3年生学外研修（県西部地区の企業、県試験研究機関、花博）



寄贈頂いた電子レンジ、ポット、トースター

## 名誉教授の称号授与



横田 正實 先生  
(前薬学部教授)

横田正實前教授は、昭和36年4月に静岡薬科大学に助手として任用され、昭和43年6月薬剤製造学教室講師、昭和55年4月漢方薬研究施設助教授に昇任された。昭和62年に県立大学組織の統廃合により静岡県立大学薬学部となった後も引き続き漢方薬研究施設の助教授として研究、教育に従事された。平成8年4月病院・社会薬学研究室の開設にともない主任教授に任用され、爾来8年間薬学教育の新しい領域である病院薬学、社会薬学の教育、研究に尽力された。特に、大学院薬学研究科博士前期課程の臨床薬学実習および学部学生の病院薬局実習の立ち上げに尽力され、本学の病院薬局実習の導入に貢献された。平成9年度から平成13年度まで東海地区薬学部学生病院・薬局実習に関する協議会委員、平成12年度には同協議会会長を務められ、本学の病院実習のみならず東海地区の薬

学教育における病院実習の充実に貢献された。

横田名誉教授は、昭和51年7月に論文題目「トリカブト根中の強心成分について」により東京大学において薬学博士の称号を受了された。その後、昭和58年及び平成11年に北京中医研究院中薬研究所、昭和62年浙江省中医薬研究所に留学し、漢方薬、中医学の領域に新しい研究分野を開拓され、多彩な研究を展開してこられた。日本における数少ない漢方薬（中医学）研究者の一人である。また、中国の北京中医研究院中薬研究所、浙江省中医薬研究所との共同研究、研究生の受け入れなど交流を深め、本学と浙江省医学科学院との交流協定締結に多大の貢献をされた。また、大学の国際交流委員会委員として、大学の国際交流に尽力されてきた。

教育に関しては、多数の学部学生、大学院生の研究を指導するとともに、社会薬学、病院薬学、医療薬学概論の講義を担当され、病院実習3週間、薬局実習1週間の実施を担当された。また、学生の漢方薬研究部の顧問としてサークル活動を積極的に指導し、学生の育成に貢献された。このように多数の優秀な人材を世に送り出し、大学や学部の発展に多大な努力を傾注された。また、薬学卒業教育講座委員会委員として卒業教育においても貢献された。

学会関係では、日本薬学会会員、和漢医薬学会会員、日本東洋医学会会員、日本薬剤師会会員、日本社会薬学会会員として活躍された。また、気血水研究会幹事、静岡県薬剤研究会幹事として研究会の発展に尽力された。

社会活動としては、市民公開講座（漢方と薬草の会）を実施され、また、行政や各種団体が主催する漢方医学や漢方薬に関する一般市民を対象とした講演会を多数行い、開かれた大学を標榜する活動として、市民への啓蒙活動に貢献された。



木村 良平 先生  
(前薬学部教授)

木村良平名誉教授は、昭和36年3月静岡薬科大学を卒業後、企業人として医薬品学術情報業務に従事された。その後、昭和38年4月に静岡薬科大学薬剤学教室助手として任用され、昭和45年に講師、昭和51年に助教授に昇任され、昭和56年には米国ケンタッキー大学薬学部に客員研究員として留学された。昭和58年には教授に昇任され、昭和62年静岡県立大学開学後も、引き続き薬剤学教室を主宰された。この間、各種委員会の委員、静岡県立大学評議員、学生部長を歴任され、41年の長きに亘り静岡薬科大学、静岡県立大学で研究、教育ならびに大学の発展に貢献された。

研究面では、主として生物薬剤学の研究に従事され、とりわけ、薬物動態学、薬効解析学、毒性学の立場からドラッグデリバリー、医薬品の薬物動態と薬効解析や環境汚染物質の薬物代謝酵素誘導作用の機構論的解析に関する研究などを精力的に行われた。また、ケンタッキー大学薬学部留学中には医薬品の鼻粘膜吸収に関する先駆的研究を展開された。これまでの研究成果は、150編を超える原著論文、8編の総説、11編の著書として発表され、生物薬剤学における功績は多大である。

学会活動としては、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬剤学会、日本医療薬学会、日本薬剤師会、国際異物代謝学会に所属され、日本薬物動態学会評議員、日本薬学会評議員・東海支部幹事として学会への寄与も大きいものがある。

静岡県においては、静岡薬剤研究会の代表世話人、静岡実験動物研究会の副会長、静岡県医薬分業推進指針検討会会長、静岡市薬剤師会主催医薬分業シンポジウム座長、静岡県こども病院治験審査委員として活躍され、地域の発展に尽力された。

教育に関しては、調剤学、薬剤学、薬物動態学、薬剤学特論（大学院）等の講義を担当され、学部および大学院学生の基礎薬学や医療薬学教育に意欲的に取り組み、後進の指導育成にあられた。特に、30年以上前から薬剤学実習に病院実習を取り入れられて県内病院薬局との密接な連携を図り、現在の実務実習の基盤を作られた。



金井 壽男 先生  
(前国際関係学部教授)

金井壽男名誉教授は、昭和36年3月に東北大学文学部を卒業、さらに昭和43年3月に同大学大学院文学研究科博士課程を満期退学された後、一関工業高等専門学校専任講師・助教授を歴任され、昭和48年4月に文学部一般教育（哲学・倫理学）担当の助教授として静岡女子大学に赴任された。その後、静岡県立大学の発足とともに静岡県立大学国際関係学部（教養科）教授として着任された。この大学の統合・改組の時期に当たる昭和63年10月から平成2年3月までは静岡女子大学の評議員として、また平成元年5月から3年4月までは県立大学の評議員として、新旧両大学の円滑な移行と新大学の発展に尽くされた。更にその後の平成5年4月には、国際関係学研究科の発足に伴いその教授を兼務し、国際関係学部内にヨーロッパ文化コースが設置された平成7年4月以降は、同コースの発展に鋭意尽力をなされた。平成11年5月からの2年間研究科比較文化専攻長の職責を果たした後は、引き続いて県立大学評議員を平成15年4月に至るまで勤められた。このように、金井名誉教授は草創期の国際関係学部の運営と発展に多大な貢献をなされた。

研究面では、古代から現代にいたるまでのヨーロッパ思想を幅広く研究対象に取り上げられた。なかでも、ソクラテスやアリストテレスの思想を数多くの論文で地道に考察するとともに、ローマ帝国がキリスト教を弾圧した時期の教父テルトゥリアヌスの著作「護教論」をラテン語から直接に日本語に訳出した仕事は、当時の歴史状況の解明に大きな衝撃を与えるものであった。さらに近年は研究対象をルネッサンス期に移されて、エラスムスやルターの果たした思想的役割の解明に努められた。

授業面においては、一般教養（全学共通科目）で長年哲学・倫理学を担当されるとともに、大学院研究科とヨーロッパ文化コースとの新設以降はヨーロッパ文化論入門・西洋古典語学・ヨーロッパ思想・演習その他を担当されて、学生の教育に全力を尽くされた。

さらに、社会的活動としても、県安全運転管理者講習の講師や県立総合病院での倫理委員を兼務されて、社会的貢献も大きなものがあつた。

## 教員の人事

### 採用

(9月1日付け)

上村 和秀 薬学部助教授

### 退職

(8月31日付け)

小橋 昌裕 食品栄養科学部教授

(9月30日付け)

菱田 雅晴 国際関係学部教授

黄倉 崇 薬学部助手

「はばたき90号」21ページの掲載内容の訂正

誤		正	
就任(4月1日付け)		就任(4月1日付け)	
三輪 匡男	薬学部教授	三輪 匡男	薬学研究科長
榊 正子	国際関係学部教授	榊 正子	国際関係学研究科長
勝矢 光昭	経営情報学部教授	勝矢 光昭	経営情報学部長
渡部 和雄	経営情報学部教授	渡部 和雄	経営情報学研究科長
寺尾 良保	環境科学研究所教授	寺尾 良保	環境科学研究所長
川瀬 光義	経営情報学部教授	川瀬 光義	(経営情報学部教授)評議員

# ボランティア活動

## ボランティアサークル「こんぺいとう」

代表：看護学部4年 松屋 奈美子

私たちボランティアサークルこんぺいとうは、さまざまなボランティア団体から寄せられたボランティア情報をサークル内で交換し合い、それをもとに個人が自主的にボランティアに参加しています。これまで、難病連や自閉症スマイルキャンプ、静岡県立中央養護学校のボランティア養成講座などに参加し、主に障害を持った子供たちと関わるボランティアに参加してきました。さらに、昨年の剣祭では小規模授産所ともの家で作られているクッキーとラスクを販売しました。

このように、今までは他の団体の活動に参加することが主でしたが、サークル内でこんぺいとう独自の活動を行おうという提案があり、今年3月からは介護療養型医療施設である瀬名病院でのレクリエーションを始めました。

瀬名病院で療養中のお年よりは多くが寝たきり状態で、職員の方々以外との接触があまりなく、刺激の少ない毎日を過ごしていらっしゃいます。そこで、こんぺいとうでなにかお年寄りを楽しませることができないかと思い、レクリエーションをさせていただくことになりました。

レクリエーションの内容は自分たちで考え、定期的に病院の職員の方と打ち合わせを行っています。3月はひな祭りの催しを行い、8月は歌、演歌体操や、風船バレーを企画しました。風船バレーは、お年寄りも夢中になって盛り上がりました。また参加していただいた方に、メンバー手作りの

うちわを参加賞として差し上げました。これはとても好評で、「いいものもらった。たのしかったよ。」と、喜んでくれました。

お年寄りに合わせた催しを考えるには、いろいろな試行錯誤が必要です。けれど、自分たちが考えたレクリエーションで、入院中のお年寄りがよろこんでくれて、とてもいい笑顔を見せてくれると、心から、「やってよかったな」と思えます。そして、「また来てね。」といわれると、次はもっと楽しいレクをやりたい！と思います。

今後も定期的に瀬名病院でレクリエーションをしていきたいと思っています。これを読んで、少しでも「やってみたいな。」と思った方は、ぜひご連絡ください。（※）瀬名病院のレクリエーションのほかにも、ボランティアに興味のある方、私たちと一緒に「こんぺいとう」を盛り上げていきませんか。



（瀬名病院レク（8月）のメンバーです）

※ご関心のある方は、県立大学事務局経営課企画スタッフまでご連絡願います。  
（代表者へ事務局より連絡した後、代表者から依頼者へ連絡いたします）

E-mail:kijo2@u-shizuoka-ken.ac.jp TEL:054-264-5103

## 市民ボランティア団体「ありキック」

国際関係学部3年 伊藤 礼子

こんにちは。私は、月に1回“ありキック”という市民ボランティア団体に参加しています。ありキックでは、障害者の方も、大人も子供も、ボランティアの人も一緒になって様々な事に挑戦しています。「何ができるか」ではなく「何をしたいか」をモットーに活動しています。私が参加したことがあるのは、バスケット、フラワーアレンジメント、ダンスです。どれも楽しく参加する事ができました。ありキックでは、年齢を問わずボランティアできる人を募集しています。



(ありキックのメンバー)

### ●「ありキック」について

私たちは“ありキック”という、今年二月に立ち上げたばかりの新しいボランティア団体です。ありキックの名前は、伝説の猪木VSアリ戦において猪木が使った技を引用しましたが、ありのような小さな存在でも、こつこつ行動をすれば社会を変えていけるという思いから付けました。ありキックは障害者の有無、年齢に関係なく誰でも参加でき、今までにしたことがないことをやってみようという、“挑戦”をテーマに活動しています。これまで、空手、合気道、バスケットボール、プリントTシャツ作り、バーベキュー、海水浴、フラワーアレンジメント、チアダンス、ネイルアートなどを行ってきました。

### ★参加者の感想（一例）

・バーベキュー

途中で雨が降ってきたけど、みんなでわいわい肉を食べたり楽しかったです。また、来年も海に行きたい！！



・フラワーアレンジメント

フラワーアレンジメントをやったのは今回が初めてでしたが、とても楽しかったです。障害者の方達と一緒に、いろいろな事を体験していくのは、刺激になります。



### ●参加者大募集

今回紹介させて頂いたのはほんの一例です。毎月第三土曜日を中心に活動していますので、ボランティアをしてみたい人や、また一緒に楽しみたいと思う人は一度見学に来て下さい！

また、企画、運営から参加したい人も募集しています。自分がしてみたいことを企画し、実行できます。そういう方もどしどし連絡ください！（※）

※ご関心のある方は、県立大学事務局経営課企画スタッフまでご連絡願います。

(代表者へ事務局より連絡した後、代表者から依頼者へ連絡いたします)

E-mail:kijo2@u-shizuoka-ken.ac.jp TEL:054-264-5103

# 成人式を新成人の手で！

## 静岡成人式実行委員会

国際関係学部2年 太田 まりこ

私たち静岡成人式実行委員会は、静岡市内の高等学校を平成14年度に卒業した有志により構成されています。来年1月3日に新成人主催の成人式を開催するために活動しています。

近年、テレビ・新聞等で各地の成人式における、新成人の態度が指摘されており、成人式の在り方そのものが見直されてきています。このような動きの中、静岡市では、現在、静岡地域と清水地域、別方式で成人式を開催しています。また、静岡地域の成人式は、公募で参加者を募る、という新しい形式で行われています。そこで、より多くの人に参加できるようにと、新成人主催の成人式を企画しています。このような成人式は、2年前に始まり、来年で4回目を迎えます。

私たちは、この成人式を、今までの20年間を振り返ると共に、これから将来の夢に向かって歩いていくきっかけとなるような式にしたいと考えています。こうした思いから、式典内容として、20年間を返る意味でのスライドと、現在各界で活躍する同世代の人からのビデオレターを企画しています。その他、芸人ライブ（出演者は未定）やプレゼント抽選会を行います。また、アカペラステージに、県立大学のアカペラサークル「ビバレッジ」より、NOW LOAD（男性6人組）が出演します。



(NOW LOAD)

この成人式は、当日会場に来ていただければ、誰でも参加することができます。人数制限もありません。静岡市（清水地域含む、新静岡市）在住、又は出身の方、ぜひ参加してください！！また、私たち実行委員会のホームページも、併せてご覧ください！！（<http://seijin2005.gozaru.jp>）

会の名称	「2005年静岡成人式」
開催日時	平成17年1月3日（月）
会場	グランシップ大ホール「海」
日程	開場 12時 開式 14時
参加費用	1,000円
主催	静岡成人式実行委員会
後援	静岡市 静岡市教育委員会

### <構成委員>

実行委員長	山田 勇希	（千葉大学 教育学部在学）
実行委員	太田 まりこ	（静岡県立大学 国際関係学部在学）
	小川 祐佳	（静岡大学 教育学部在学）
	中山 義教	（立命館大学 法学部在学）
	村田 亜侑美	（静岡大学 教育学部在学）
	望月 麻衣	（静岡大学 人文学部在学）

# コーラス部 定期演奏会のご案内

コーラス部 部長  
経営情報学部3年 村松 亮輔

私たちコーラス部は歌が大好きなメンバーで構成された部活です。部員数は男性7名、女性9名と決して多くはありませんが、部員同士とても仲が良く毎年12月に開催する定期演奏会に向けて日々練習を重ねています。



今年も昨年に続き静岡音楽館A O Iにて定期演奏会を開催する運びとなりました。4部構成でお届けする今回のステージは、ミュージカル、アカペラ、外国語とバラエティーに富んだ構成になっています。第1部はイタリアの多声世俗声楽曲・マドリガーレのステージです。5声の織り成すハーモニーをイタリア語で厳かに演奏します。第2部はお楽しみステージです。ブロードウェイミュージカルの定番「オペラ座の怪人」「CATS」などをオムニバス形式で、明るく楽しいオリジナルのミュージカルに仕立てました。第3部は無伴奏混声組曲「子猫物語」です。子どもの可愛さや無邪気さ、生命のぬくもりが散りばめられた心あたたまる組曲です。第4部は毎年恒例の外部参加ステージです。今年はヘンデルのオラトリオ「メサイア」より、「ハレルヤ！」他4曲をOB・OGの先輩方や地元合唱団の方々を交えて壮大に歌いあげます。



今年の定期演奏会はちょうど15回目の節目を迎えます。節目にふさわしい演奏会をお届けできるよう、普段の練習や地域活動により一層力を注いでいきます。是非私たちの演奏を聴きにいらしてください。皆様のご来場を部員一同心よりお待ちしております。

第15回 静岡県立大学コーラス部 定期演奏会 於：静岡音楽館A O I

日時：平成16年12月19日（日） 13時30分開場、14時開演

アクセス：JR静岡駅北口より徒歩2分、静岡中央郵便局8階

入場無料

（部員、外部ステージ参加者も随時募集中！！）

活動時間：18：00～20：00（火・木）、13：30～16：00（土）

活動場所：一般教育棟3階 2309教室 / クラブ棟B 2階 7226教室（部室）



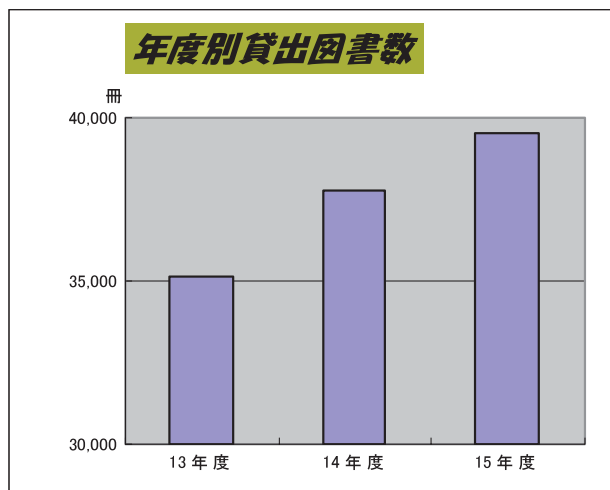
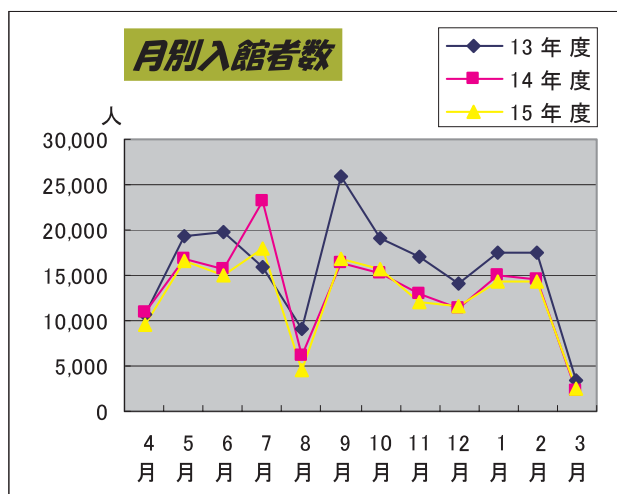
# 統計でみる附属図書館

平成15年度の利用状況を報告します

入館者数は、この3年間で20%減少していますが、図書の貸出利用は増加しています。

他機関への文献複写依頼数も右肩下がりでありますが…。

電子ジャーナルの整備や相互協力の申込が研究室等のオンライン端末から可能になり、システム整備や図書館に来なくても利用できる文献が充実されてきたことによる成果です。



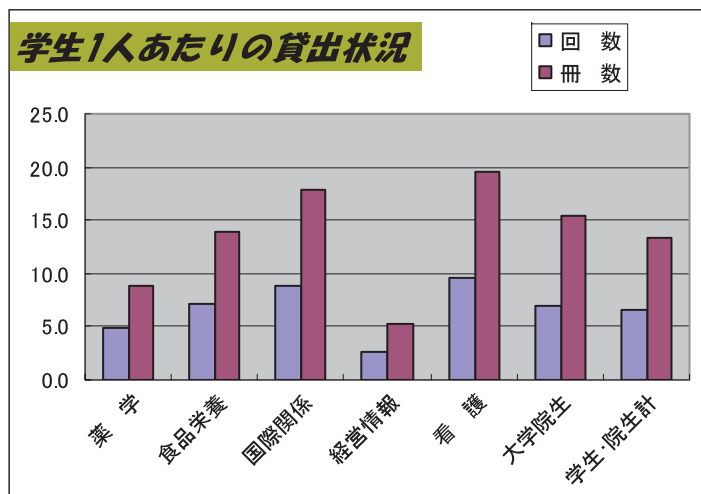
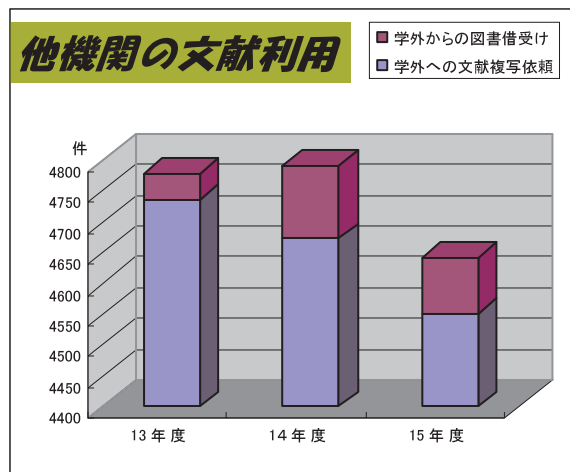
県立大生1人あたりの図書貸出冊数は 年間13.3冊

因みに全国大学生平均は8.1冊

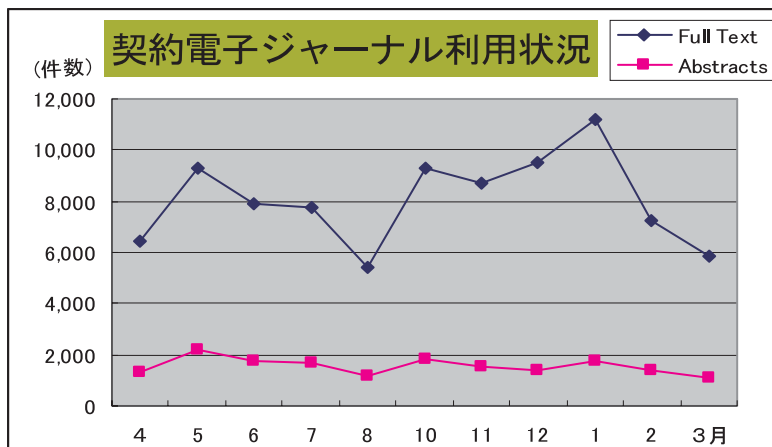
公立大学生：12.3冊

国立大学生：9.7冊

私立大学生：7.4冊



平成15年度1年間に85,286タイトルの full text、18,583タイトルのabstractが電子ジャーナルで利用されました。



COE予算、学部予算等により学内システムで利用できる電子ジャーナル並びにデータベースが整備され、学内のLAN接続端末から利用されています。今後設置予定の情報センター機能のなかでの更なる拡充が検討されています。

EJサービス名称	全文雑誌数
COE e-Journals	2,213
ACS	27
Nature	18
ScienceDirect	1,543
Synergy	341
Link	284
OUP	7
EBSCOhost	3,268
Academic Search Elite	1,982
Business Source Elite	1,119
CMMC	167

## 本学教員からの著書寄贈

先生の著書を寄贈していただきました。(平成16年1月以降)

図書館2階自由閲覧室の教員著作コーナーに配架してあります。

◎富沢寿勇 教授 (国際関係学部)

・王権儀礼と国家：現代マレー社会における政治文化の範型 東京大学出版会 2003年

◎高柴慎治 教授 (国際関係学部)

・夜窓鬼談 春風社 2003年

◎岩崎邦彦 助教授 (経営情報学部)

・スモールビジネス・マーケティング 中央経済社 2004年

◎五島綾子 教授 (経営情報学部)

・NANO:ナノの世界が開かれるまで 海鳴社 2004年

◎佐藤登美 教授 (看護学部)

・だからぼける 静岡新聞社 2004年

◎樋口まち子 教授 (看護学部)

・Traditional Health Practices in Sri Lanka (Sri Lanka Studies 9) VU University Press 2002年

◎奥原秀盛 助教授 (看護学部)

・がん患者と家族のためのサポートグループ 医学書院 2004年

## 広野神社の天狗

県立大学から西に向かうと、県立美術館から下りてくる道におつかる。これを北すなわち左を向いておりにいくと、最初の信号のある交差点が出る。この道をこんどは右、すなわち西を向いていくと、橋がある。『サイカチ橋』という。むかし、このそばにサイカチの木があったからだが、とうりも『サイカチ通り』と言う。さらに西にいき、東名のガードを抜け、左に見えるのが『広野神社』である。国吉田村の鎮守さまなのだが、この社のそばに昔『天狗の松』があったのだ。

### 『山門のない桃源寺』

明治時代に、台風で倒れたといわれているが、江戸時代の絵図には確かに出ている。

同社と、ちかくにある『桃源寺』とは、とかく因縁があり、いまも天狗様がいた証拠がみられるのだ。

それは、桃源寺に山門がないことである。むかし、広野神社にすんでいた天狗が、自分より高い場所にあるこの寺をねたみ、山門をつくらせず、造るたびに壊したととか。それでいまも、

## 谷田風土記

桃源寺には、山門がないような。普通禅宗の寺には『不許葷酒入山門』という碑があるものだが、山門がないため、酒やニンニクを境内に持ち込めるといって、いまでも地元の人は花見で同寺にはいって行く。

### 『隣に県大宿舎』

寺の横に県立大学の教員住宅もあり、景色と風光はまさに天下の絶景である。

広野神社はヤマトタケルが東征のにおりに参拝したという古い神社であり、地元の厚い信仰をあつめているが、いまもさまざまな大樹があつて古社の風格をしのばせている。

天狗のいたという『大松』を描いた古図面に確かに『松』はある。



83 (左下側にならぶのが大松)

## 豪グリフィス大学と学術交流協定を締結

本学では、オーストラリアのグリフィス大学 (GRIFFITH UNIVERSITY) と、学術交流協定の締結に向けて協議を進めてきたが、このたび協議が整い、廣部雅昭学長が9月30日(木)、協定書に調印した。海外の大学等との交流協定の締結はグリフィス大学が8校目。

今後の具体的な交流事業については、当面は薬学部の実験室や学生との交流が中心となるが、将来的には薬学部以外の学部の教員や学生との交流などについても推進を図っていく予定である。

グリフィス大学 (GRIFFITH UNIVERSITY)

- 所在地：オーストラリア クイーンズランド州ブリスベン市
- 設立年：1971年創立
- 学 長：Glyn Davis (グリン・デイビス)
- 学 部：7学部 (College) と27学科 (School)
- 学生数：約27,000人 (うち大学院生約2,300人)
- 教職員数：約3,000人



### ● ● ● ● ● ● ● ● 学内ニュース「はばたき」への寄稿を大歓迎! ● ● ● ● ● ● ● ●

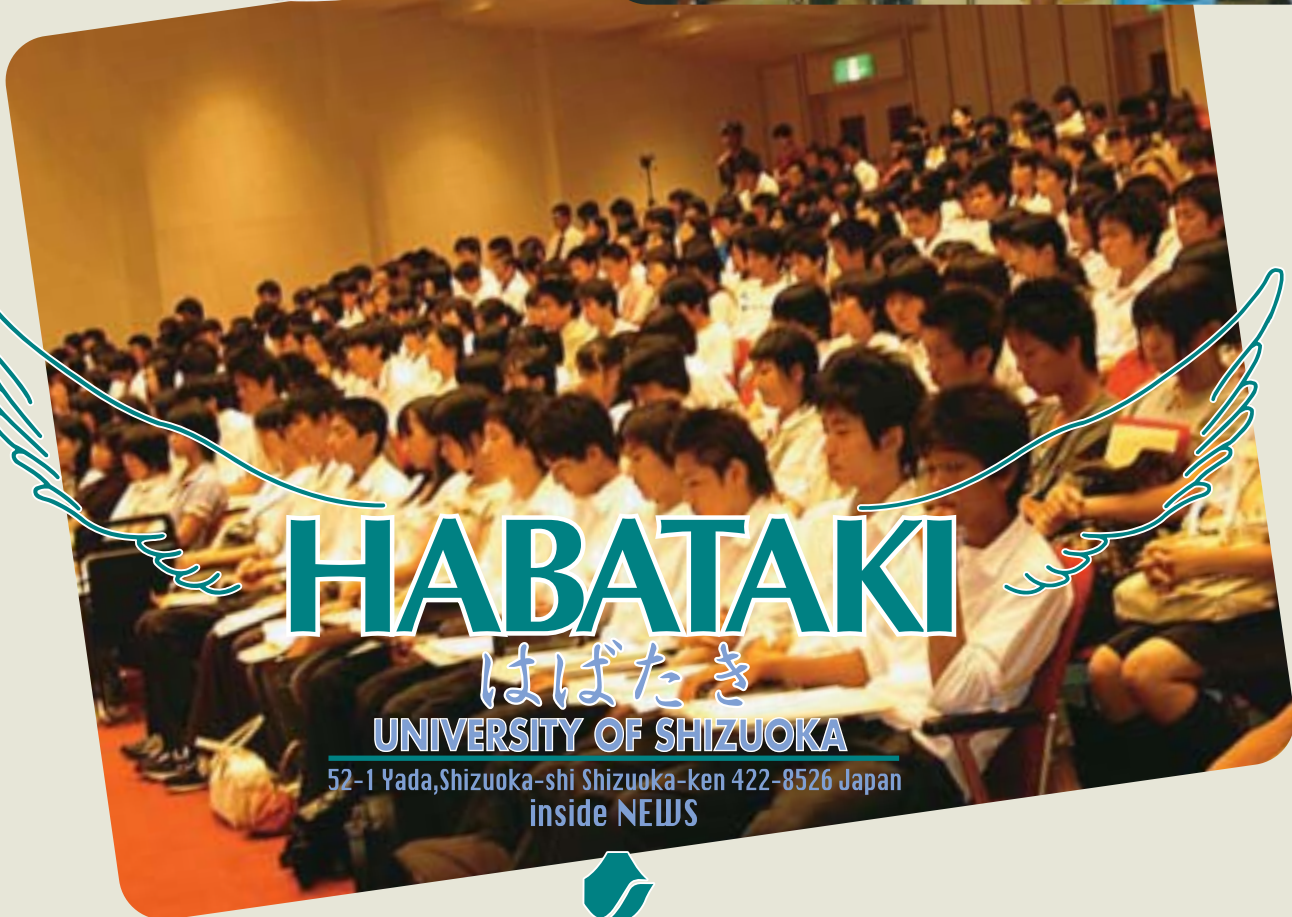
教職員・大学院生の皆様の受賞、研究助成への採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル活動報告、ボランティア活動などの寄稿をお寄せください。大歓迎します。

事務局経営課・企画スタッフ (管理棟2階) あてにお願いします。

E-mail:kijo2@gm.u-shizuoka-ken.ac.jp

企画・編集：静岡県立大学広報委員会 (事務局 TEL054-264-5103)

静岡県立大学ホームページアドレス：<http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp>



# HABATAKI

はばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

52-1 Yada, Shizuoka-shi Shizuoka-ken 422-8526 Japan  
inside NEWS

## ● CONTENTS ●

オープンキャンパスを開催	1	部局の動き	
「県民の日」の学内行事	2	薬学部	15
創薬探索センターを設置	3	食品栄養科学部	17
日本薬理学会関東部会を開催	4	名誉教授の称号授与	19
受賞	5	教員の人事	20
科学研究費補助金の追加採択	6	学生の活動	
研究助成採択	6	ボランティア活動(こんべいとう)	21
交換留学生の紹介	6	ボランティア活動(ありキック)	22
奨学金の授与	7	新成人主催の成人式に向けて	23
インターンシップ活動報告	11	コーラス部の演奏会を行います	24
著書紹介	11	統計でみる附属図書館	
テニス大会を開催	12	利用状況報告	25
全勝優勝! 準硬式野球部	12	本学教員からの著書寄贈	26
研究室・ゼミ	13	谷田風土記	27
		グリフィス大学と学術交流協定を締結	27